

TGR TEAM ZENT CERUMO

2020 AUTOBACS SUPER GT Report

たかのこのホテル FUJI GT 300km RACE

第8戦 富士スピードウェイ

ZENT GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆11月8日（日） RACE

決勝結果 8位

いよいよ迎えた 2020 年の SUPER GT 最終戦。泣いても笑っても、この一戦が今季のラスト。良いかたちでシーズンを締めくくるためにも、好結果で終えたい。TGR TEAM ZENT CERUMO は気温 13 度、路面温度 11 度というコンディションのなか、第 8 戦富士の決勝レースのスタートを迎えた。



冷え込みもあり、3 周に渡って行われたフォーメーションラップを経て切られたスタートで、ZENT GR Supra のスタートドライバーを務めた立川祐路は、ウォームアップの早さを活かし怒涛のオープニングラップをみせた#23 GT-R にかわされるものの、5 番手で 1 周目を終える。序盤、2 番手から 4 番手までを占めた GR Supra 勢の一角を担った立川は、5 周目に#39 GR Supra が接触の影響で後退すると 4 番手に順位を戻すことに成功する。

しかし 5 周を過ぎる頃になると、立川は異変を感じはじめていた。ZENT GR Supra のフィーリング自体は良いものだったが、タイヤの表面にコース上のタイヤカスがかくついてしまい、大きな振動やグリップダウンを招く『ピックアップ』と呼ばれる症状が出はじめてしまったのだ。このピックアップは、寒い時季のレースで多く発生する。

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

ADVICS

HEISEL

asics

JMS

T-SELECT

トヨタ東大

BBS

SHOWA
BRAKE FLUID

MOTUL

TGR TEAM ZENT CERUMO

ピックアップの症状により急激にペースが落ちはじめってしまった立川は、なんとかポジションを死守していたものの、10 周目に#17 NSX-GT、#100 NSX-GT に相次いでかわされてしまい 6 番手に順位を落としてしまう。その後も立川の苦闘は続き、15 周目には#12 GT-R に、16 周目には#14 GR Supra にもオーバーテイクを許してしまった。17 周目にはペースが落ちた#23 GT-R こそかわし 7 番手に順位を戻したが、やはり苦しい状況は変わらなかった。



このまま苦戦のなかでレースを続けていても、傷口は広がる一方だ。TGR TEAM ZENT CERUMO は 23 周を終え立川をピットに戻すことに決め、さらに前半スティントとは異なるタイヤを装着するべく、バックアップ用のタイヤを履くことに決める。ただ、本来タイヤは一度使用する“皮むき”と呼ばれる作業を経てレースに使用するが、バックアップ用ということもありその過程を経ていなかった。

ピットアウトした石浦は、皮むきしていないタイヤということもありウォームアップに苦戦することになるが、そのテクニックでタイヤに熱を入れると、8 番手から追い上げを開始する。32 周目には 7 番手に浮上すると、前をいく#12 GT-R に狙いを定め、39 周目にこれをオーバーテイク。さらにタイヤ無交換作戦を採っていた#8 NSX-GT に接近し、41 周目にオーバーテイク。ふたたび 5 番手に順位を戻した。

しかし、終盤に向けてさらなる追撃に期待がかかる ZENT GR Supra だったが、レースも終盤に近づきはじめると、前半の立川同様、ふたたびピックアップの症状が出はじめってしまった。こうなるとペースは急激に落ちてしまう。50 周目、一度は抜いた#8 NSX-GT に先行を許し、さらに 52 周目の TGR コーナーでは、#3 GT-R にもオーバーテイクされてしまった。

このピックアップは、タイヤ表面についたカスが落ちれば症状は治まるが、ZENT GR Supra の症状は大きく、なかなかペースを戻すことができない。55

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

ADVICS

HEISEL

asics

JMS

T-SELECT

トヨタ東大

BBS

SHOWA
BRAKE FLUID

ADVICS

TGR TEAM ZENT CERUMO

周目、#12 GT-R にもかわされてしまい、なんとか 65 週のレースを走りきったものの、全力で臨んだ今季最終戦は、8 位という悔しい結果に終わってしまった。



レースを通じてピックアップに悩まされ続ける結果となった ZENT GR Supra。もちろん他車にも症状は出ていたが、ZENT GR Supra のものは特に大きかったのが苦戦の原因だ。また、本来得意としていたはずの富士では、今季 4 戦すべてで苦しむシーズンになってしまった。

GR Supra の初年度で、まさかの悔しいシーズンとなった TGR TEAM ZENT CERUMO。2020 年、ふたたび体制を整え、チームは捲土重来を期する。

ドライバー／立川祐路

「ペースが上げられなかった原因は、タイヤのピックアップです。フロントタイヤがまともに走れる状況ではないほどになってしまい、ずっと苦しいレースになってしまいました。今季最終戦だったのでなんとか良いレースにしたかったのですが、結果的にはすごく残念ですね。なんとかピットウィンドウがオープンするまで繋ぎ、後半の石浦選手に託しましたが、追い上げてはくれたものの、同様の症状に見舞われ苦しいレースになりました。とはいえ、全車がそうになっているわけではないので、来季に向けて原因を究明し、また得意なはずだった富士での速さを取り戻さないと戦えるようにはならないので、来季に向けてしっかり準備したいと思います。

ドライバー／石浦宏明

「前半スティントの立川選手が苦しそうな展開だったので、バックアップ用のタイヤを急遽投入し、いちかばちかの勝負をしようとコースインしました。コースに入ってからすぐは苦しい状況でしたが、その後は 2 台をかわすことができ、前を追う展開になっていました。しかし途中からピックアップがひどくなり、GT300 の車両と交錯したときに大きなピックアップを拾ってしまいました。



TGR TEAM ZENT CERUMO

その後はペースも苦しいままになり、立川選手のと看と同じような状況になりました。今季は富士での速さが足りないところが大きく、テストもできずひっくり返すことはできませんでした。これからシーズンオフを迎えますが、苦しなかった部分をしっかり改善したいと思います。応援してくださった皆さんに良いところをみせられず、悔しいレースになってしまいましたね」

村田淳一監督

「残念ながら完敗です。今季はシーズンの最後まで良いところをみせることができませんでした。近年これほど苦しんだシーズンはないほどでした。もちろんその分、悪いときのデータはとれていましたし、最終戦に向けて膿を出し切って臨んだつもりでしたが、ピックアップに苦しめられてしまいました。もちろん他車もそうですが、特に苦しめられた印象ですね。我々が足りなかった部分もありますし、こういった結果を重く受け止め、チーム全体を再構築していきたいと思います。また GR Supra の開発陣も挑戦者として努力してくれると思っています。ドライバーふたりにもフラストレーションが溜まるレースをさせてしまいましたが、これを糧として来季に繋げたいと思います。今シーズン、TGR TEAM ZENT CERUMO にたくさんのご声援をありがとうございました」



ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

ADVICS

HEISEL

asics

JMS

T-SELECT

トヨタ東大

BBS

SHOWA
BRAKE FLUID

MOTUL

TGR TEAM ZENT CERUMO

決勝結果表

Rank	Car No.	CarName	Laps	BestLapTime
1	100	RAYBRIG NSX-GT	65	1'29.592
2	37	KeePer TOM'S GR Supra	65	1'29.009
3	36	au TOM'S GR Supra	65	1'29.380
4	17	KEIHIN NSX-GT	65	1'29.351
5	8	ARTA NSX-GT	65	1'30.206
6	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R	65	1'29.874
7	12	CALSONIC IMPUL GT-R	65	1'29.719
8	38	ZENT GR Supra	65	1'29.471
9	23	MOTUL AUTECH GT-R	64	1'29.268
10	19	WedsSport ADVAN GR Supra	63	1'30.590
11	64	Modulo NSX-GT	63	1'30.491
12	16	MOTUL MUGEN NSX GT	63	1'30.619
13	24	REALIZE CORPORATION ADVAN GT-R	63	1'29.983
14	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	60	1'29.529
15	14	WAKO'S 4CR GR Supra	34	1'30.137

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

ADVICS

HEISEL

asics

YAMAHA
JMS

T-SELECT

トヨタ東自大

BBS

SHIMADA
BRAKE FLUID

ADVICS
RACING WEAR

TGR TEAM ZENT CERUMO

2020 年 GT500 クラスポイントランキング

(上位 10 位までを抜粋)

Rank	Car No.	Driver Name	Point
1	100	山本 尚貴 / 牧野 任祐	69
2	37	平川 亮	67
3	17	塚越 広大 / ベルトラン・バゲット	59
4	36	関口 雄飛 / サッシャ・フェネストラス	56
5	8	野尻 智紀 / 福住 仁嶺	54
6	23	松田 次生 / ロニー・クイントレリ	51
7	14	大嶋 和也 / 坪井 翔	47
8	37	ニック・キャンディ	46
9	39	中山 雄一	42
10	38	立川 祐路 / 石浦 宏明	40

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

ADVICS



asics

YAMAHA
JMS

T-SELECT

トヨタ東自大

BBS

SHOWA
BRAKE FLUID

ADV
RACING GEAR